

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公開番号】特開 2003-34730 (P2003-34730A)

【公開日】平成 15 年 2 月 7 日 (2003.2.7)

【出願番号】特願 2001-223256 (P2001-223256)

【国際特許分類第 7 版】

C 0 8 J 5/18

B 2 9 C 55/02

B 2 9 C 61/06

B 6 5 D 71/08

G 0 9 F 3/04

// B 2 9 K 67:00

B 2 9 K 105:02

B 2 9 L 7:00

C 0 8 L 67:02

【F I】

C 0 8 J 5/18 C F D

B 2 9 C 55/02

B 2 9 C 61/06 Z A B

B 6 5 D 71/08 A

G 0 9 F 3/04 C

B 2 9 K 67:00

B 2 9 K 105:02

B 2 9 L 7:00

C 0 8 L 67:02

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 5 月 10 日 (2004.5.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱収縮性ポリエステル系フィルムにおいて、

多価アルコール成分 100 モル % 中、1,4-シクロヘキサンジメタノール成分が 10 ~ 50 モル % であり、

10 cm × 10 cm の正形状に切り取った熱収縮性ポリエステル系フィルムの試料について、下記 (A)、(B) および (C) の熱収縮率が、(A) : 10 ~ 30 %、(B) : 40 ~ 60 %、(C) : 50 ~ 70 % であることを特徴とする熱収縮性ポリエステル系フィルム。

ここで、

(A) : 65 の温水中に 10 秒浸漬して引き上げ、次いで 25 の水中に 10 秒浸漬して引き上げたときの最大収縮方向の熱収縮率、

(B) : 75 の温水中に 10 秒浸漬して引き上げ、次いで 25 の水中に 10 秒浸漬して引き上げたときの最大収縮方向の熱収縮率、

(C) : 85 の温水中に 10 秒浸漬して引き上げ、次いで 25 の水中に 10 秒浸漬し

て引き上げたときの最大収縮方向の熱収縮率、  
である。

【請求項 2】

さらに多価アルコール成分として、炭素数 3 ~ 6 の直鎖ジオール成分を含有するものである請求項 1 に記載の熱収縮性ポリエステル系フィルム。

【請求項 3】

極限粘度が  $0.66 \text{ dl/g}$  以上である請求項 1 または 2 に記載の熱収縮性ポリエステル系フィルム。

【請求項 4】

$275$  での溶融比抵抗値が  $0.70 \times 10^8 \cdot \text{cm}$  以下である請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の熱収縮性ポリエステル系フィルム。

【請求項 5】

フィルムの最大収縮方向についての熱収縮試験を、 $90$  の熱空気中、試験片幅  $20 \text{ mm}$ 、チャック間距離  $100 \text{ mm}$  の条件で行ったとき、最大熱収縮応力値が  $3.0 \text{ MPa}$  以上である請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の熱収縮性ポリエステル系フィルム。

【請求項 6】

1, 3 - ジオキソランで接着可能である請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の熱収縮性ポリエステル系フィルム。

【請求項 7】

無菌充填用容器の被覆に用いられるものである請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の熱収縮性ポリエステル系フィルム。

【請求項 8】

ポリエステル系フィルムを少なくとも一方向に延伸して請求項 1 ~ 7 に記載の熱収縮性ポリエステル系フィルムを製造するに当たり、

前記延伸を 2 段階に分けて行うと共に、

1 段階目の延伸倍率を、未延伸フィルムに対し、 $1.6 \sim 3.2$  倍、

2 段階目の延伸倍率を、1 段階目の延伸後のフィルムに対し、 $1.1 \sim 2.5$  倍とし、且つ、

最終的な延伸倍率を、未延伸フィルムに対し、 $3.3 \sim 5.3$  倍とすることを特徴とする熱収縮性ポリエステル系フィルムの製造方法。